各関係機関長 殿 病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター 病害虫防除所長

令和元年度技術情報について

令和元年度技術情報第2号を発表したので送付します。

令和元年度技術情報第2号

令和元年8月29日 徳島県

8月第6半旬の普通期水稲巡回調査において、トビイロウンカ短翅型雌成虫の生息を確認しました。9月以降に収穫する圃場では坪枯れの発生が懸念されます。

現地においては,発生状況の把握に努めるとともに,適切な防除指導をお願いします。

作物名:普通期水稲(9月中旬以降に収穫するヒノヒカリ等)及び酒米(山田錦等)

病害虫名:トビイロウンカ

- 1 発生地域 県内全域(9月中旬以降に収穫する圃場)
- 2 発生時期 9月~
- 3 発生狀況
 - (1)普通期水稲現地巡回調査結果

8月26~27日に実施した普通期水稲現地19圃場における25株払い落とし調査では、発生圃場率が26.3%と、平年(9.7%)に比べて高いが、株当たり寄生虫数は 0.03頭と、平年(0.07頭)並の発生である。なお、増殖率の高い短翅型雌成虫は、3 圃場で確認され、株当たり寄生虫数は 0.04~ 0.08頭であった。

地域別の発生状況は、北中部9 圃場(板野郡2 圃場, 阿波市3 圃場, 名西郡2 圃場, 吉野川市2 圃場)では、発生圃場率が22.2%、株当たり寄生虫数が 0.03頭であった(平年: 8.0%, 0.01頭)。また、短翅型雌成虫は吉野川市鴨島町及び山川町の2 圃場で確認され、それぞれ株当たり寄生虫数は 0.08頭であった。

西部10圃場(美馬市4圃場,三好市3圃場,東みよし町3圃場)では,発生圃場率が30.0%,株当たり寄生虫数が0.03頭であった(平年:12.7%,0.2頭)。また,短翅型雌成虫は東みよし町の1圃場で確認され,株当たり寄生虫数は0.04頭であった。

(2)徳島地方気象台が8月22日に発表した1か月予報では,8月31日以降は平年と同様に晴れの日が多く,気温は平年並か高いと予想されており,発生助長的な気象条件である。

4. 防除法等

- (1) 圃場における発生状況を早期に確認し、1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う(表1)。
- (2) 本虫は株元に生息しているので,薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合であっても,降雨の合間に薬剤防除を行う。
- (4) 防除等の詳細については, 徳島県植物防疫指針を参照するとともに, 薬剤の使用に当たっては, 必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。



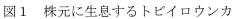




図2 トビイロウンカによる被害(坪枯れ)

表1 トビイロウンカに効果のある農薬(農薬登録内容:2019年8月27日現在)

3.1 1 0 1 1 7 7 7 1 C 3.1 7 1 1 2 3 1 1 1 1 2 3 1 1 1 1 2 3 1 1 1 1					
農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統	IRAC⊐ード
キラップフロアブル	1000~2000倍	収穫14日前まで	2回以内	フェニルピラゾール	2(B)
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	ピレスロイド	3(A)
MR.ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	ピレスロイド	3(A)
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	3000倍	収穫7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド	4A
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキシミン	4C